

株式会社勝美ジャパン

所在地 東京都中央区東日本橋2-16-7
ANNI東日本橋ビル7F

代表者 代表取締役 山崎 裕康

設立 2003年12月

資本金 8,200万円

従業員数 26名

URL <https://www.katsumijapan.com/>



海外展開支援事例

メディカル給食のニーズに応える 新たな産地探しが実を結び 高品質な商品の安定製造と カントリーリスクの分散を実現

INDONESIA



現地出張時の写真 左から2番目が山崎会長



現地で訪問した加工機械サプライヤー



インドネシアトバ高原の人参畑



主力製品の冷凍蒸野菜

○ 1国依存からの脱却に向けて産地開拓の努力を重ねる

2003年に創業した当社は、医療施設・福祉施設などのメディカル給食に特化した冷凍蒸野菜を主力商品とするメーカーです。材料となる野菜は海外で厳しい管理のもと栽培から収穫まで行った後、顧客から求められる6サイズへのカット～蒸し～急速冷凍の加工を経て輸入しお客様にお届けしています。

現在は海外7カ国12のOEM工場と国内4工場で生産を行っていますが、当社のサプライチェーンの中で最も比率が高いのは中国です。中国は気候が日本に近く、多品種小ロットの栽培・生産が可能で、日本のニーズに合わせた冷凍野菜製造の長い歴史があります。世界中探しても、このような国は他にありません。しかし当社は1国依存から脱却するため長年努力を重ね、インドネシアの熱帯高原に可能性を見出しました。ちょうどそのタイミングで会社の支援事業を知り、協力していただくことにしたのです。

○ コロナ禍のアクシデントも乗り越えて着実に進行

当初はインドネシアでの合弁会社設立を想定し、公社には現地の日本向けサプライチェーンの調査をお願いしたり、インドネシア語のカタログを作成していただいたりしていました。2020年3月に現地調査に赴く際には、事前に生産委託先や種子の仕入先候補にアポイントを取ってもらったのですが、新型コロナウイルス感染症の影響で現地に到着したその日に7社中6社から面談をキャンセルされてしまいました。そこで急遽、公社に加工機器のサプライヤーを中心に面談をセッティングし直してもらい、無事に訪問することができました。帰国後は公社の専門家派遣を活用し、ジャカルタに駐在歴がありインドネシアの税務・会計に精通している公認会計士にアドバイスをいただきました。

○ 産地分散の課題をクリアして1つのステップを昇った

今回は数種類の進出形態が考えられましたが、インドネシアの国情なども鑑み様々な角度から精査した結果すでに生産委託していた北スマトラ島の工場に投資し当社専用の生産ラインを設置することとしました。現地には当社の社員3名を派遣する予定で、種子の選定・栽培管理から製造に至るまで当社のノウハウ・技術を駆使し、お客様が納得する品質の商品を製造する予定です。

当社のように成長段階にある会社は、公社の支援を有効に活用することで課題をクリアすることが可能なのではないでしょうか。当社も公社に非常に熱心に協力していただいた結果として長年の懸案だった「カントリーリスクの分散」という課題をクリアし、1つステップを昇ることができました。海外進出の判断はあくまで自己責任。公社に応援してもらいつつ、経営者が独立・勤勉の精神と熱意をもってしっかり判断することが重要です。経営者の強い気持ちがあれば、どのような形であれきっと道は開けます。